



びより ふくし日和

～社会的孤立対策モデル事業～

地域の「福祉力」向上を目指して・・・

社会福祉法人
八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平 1318-1

電話：998-4000

FAX：998-8999

社協HP

<http://yaeseshakyo.com/>



八重瀬町社会福祉協議会は平成30年度から3年間、沖縄県社会福祉協議会より「社会的孤立対策モデル事業」を受託しました。

本モデル事業は、区長自治会長、民生委員・児童委員、地域住民、ボランティア、社会福祉施設、NPO 団体、市町村行政等の関係機関との連携のもと、地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会を目指し、社会的孤立・社会的排除の解消と防止を図ることを目的とします。

「社会的孤立」とは・・・

周りに助けを求める相手がいない。

またはその人の周りにその人を気に掛ける人が誰もいない状態。

※ THANKS (サンクス) 運動パンフレットより



モデル指定を受けた本会が取り組む事業は、以下の通りです。

- (1) コミュニティソーシャルワーカー (CSW) の配置
- (2) 地域における孤立解消に向けた取り組み
- (3) 地域支え合いづくり支援協議会の設置
- (4) 社会福祉施設との協働
- (5) 広報活動の実施
- (6) 地域の特性にあわせた事業

CSWとは、地域における見守り・発見・サービスへのつなぎの役割を担う福祉専門職です。

私達がCSWです

よろしくお願いします
(^o^)/



左から

具志頭小学校区担当・・・仲村

東風平小学校区担当・・・島

モデル事業担当・・・新垣

新城小学校区担当・・・赤嶺、新垣

白川小学校区担当・・・古波津

支え合い委員会連絡会 開催

平成30年6月に、八重瀬町社会福祉会館や南の駅やえせにて、町内4小学校区ごとに「支え合い委員会連絡会」を開催しました。各字・自治会の区長、書記、民生委員、老人クラブ会長、子ども育成会会長等が参加されました。その中で、本事業の説明並びにモデル地区募集の案内を行いました。



東風平小学校区支え合い委員会
(平成30年6月28日)



白川小学校区支え合い委員会
(平成30年6月20日)



具志頭小学校区支え合い委員会
(平成30年6月27日)



新城小学校区支え合い委員会
(平成30年6月18日)

朗報 ☆第1期モデル地区 決まる☆

モデル地区を募集した結果、**富盛、屋宜原団地、友寄第一団地、県営外間団地、具志頭、安里、仲座、新城、後原**の9字・自治会がモデル地区と決定しました。

モデル地区になった字・自治会は、**地域に2名の相談員を配置し、公民館等を活用して月1～2回程度、「地域の相談窓口」を開設します。**また、地区のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)と協働して地域の問題解決に向けて取り組んでいきます。



認証式・研修会を開催

モデル地区決定後、平成 30 年 9 月 25 日（月）に町社会福祉会館にて、「平成 30 年度支え合い委員会モデル認証式並びに地域窓口相談員研修会」を開催しました。モデル地区 9 字・自治会の支え合い委員・地域窓口相談員、本会職員を対象に実施し 36 名の参加がありました。



本会からモデル地区に認証書と、相談員に地域窓口相談員委嘱状を交付しました。



また、沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部主任の大城利公氏に「サクス運動と地域共生社会づくりの方向性について」を、合同会社 HAPPY JOY 代表の幸喜穂乃氏に「キクことから始まる地域づくり」をテーマに、それぞれ講演していただきました。



参加者の声

- ☆研修は、とてもわかりやすく具体的でよかった。
- ☆3つのキクの意味が分かり、聞く、聴く、訊くを実践しようと思う。
- ☆区民のみなさんにも相談員がいることや、気軽に相談にきてほしいことを伝えたいと思った。

モデル事業を通して、地域福祉課題の解決に向けて、本会と地域住民が協働して対応できる仕組みづくりの構築を目指していきたいと思います。

平成30年10月より地域相談窓口を開始



モデル地区の9字・自治会において、公民館や集会所を活用した「地域相談窓口」が設置されました。相談窓口では、各地区から推薦された区長や民生委員等が「地域窓口相談員」として配置されました。地域の困り事は地域で解決していこうという趣旨のもと、月1回、多い地区で月4回程度、窓口を開設しています。

子どもから高齢者まで年齢は問わず相談受付し、必要に応じ関係機関との連携も行います。



屋宜原 団地



富盛

本会では、地域相談窓口を開設しているモデル地区を地域住民に周知する為、チラシを作成しました。また、公民館や集会所前に設置できるのぼり旗を作成しました。モデル地区にお住まいの方は、チラシやのぼり旗をご確認下さい。



チ ラ シ



の ぼ り 旗

モデル事業の周知を図る為、本会の社協だよりとホームページのブログ、町の広報誌で情報発信しています。そして、沖縄県社会福祉協議会のホームページや、沖縄タイムス、琉球新報の新聞記事でも取り上げてもらっています。

安里地区の取り組み

安里地区では、認知症の高齢者の支援で課題のある事例がありました。その為、本会と町地域包括支援センターが連携して、地域住民を対象にした認知症勉強会を平成30年7月29日（日）に安里公民館で行いました。



参加者の声



☆地域で何ができるのか、皆で協力し、分かり合えば心配も減るのではないかな。

家族の声



☆気にかけてくれる声が多くあり、大変ありがたかった。

その後、区長、書記、民生委員・児童委員、老人クラブ会長をメンバーとした安里地区支え合い委員会が、当事者の見守りに関して話し合いを行いました。

結果、委員会のメンバーを中心とし、当事者の友人や、勉強会で協力できると言って下さった方を募り（計19名）、見守り体制を整えました。

当事者のサービスの隙間時間を、朝・夕どのように見守りを行うか、家族を交えて定期的な話し合いを行い、取り組み状況や課題を共有しました。

この取り組みを通して、地域の福祉課題を地域住民で共有し、解決する事ができました。



富盛地区の取り組み

富盛地区では支え合い委員会やボランティアを中心に夏休み期間の8月、9時30分～11時30分まで富盛公民館にて「夏休み子どもたちの居場所作り」の活動が行われました。

対象は小学校1年～6年生までで、夏休みの宿題や絵本の読み聞かせ、昔遊びを取り組みました。

参加児童の声



☆今日はとっても楽しかった。
1番はビー玉遊びが楽しかった。

支え合い委員の声



☆活動を通して、地域と町社協がつながりを持つことができたようになった。



本会では、今後もこの取り組みを継続する為に、地域との協働のほか学校等の教育機関とも連携していけるように働きかけたいです。

世名城地区の取り組み

平成31年1月20日（日）、世名城グラウンド（馬場）において町役場・島尻消防組合消防本部・糸満警察署・町赤十字奉仕団の協力のもと「世名城自治会体験型防災訓練」を開催しました。地域住民165名の参加がありました。

本訓練は、車いす、アイマスクの福祉体験（疑似体験）等を通して地域で助けを必要としている方を発見し支援する方法や当事者理解につなげました。

当日は、本会職員が世名城の人口、高齢者数、障害者数等の現況をパネルで案内しました。日頃から住んでいる地域の状況を区民が把握し、日頃から備えることの大切さ、支え合うことの必要性について防災を通して学びました。

避難行動では、島尻消防組合消防本部・糸満警察署より講評があり「大きな災害では消防・警察・自衛隊等はすぐに駆け付けることはなかなかできない。そのため、住民同士の助け合いが重要になる」とあり、また多くの参加者が集まったことに評価いただきました。



参加者の声

- ☆初めて防災訓練に家族で参加しました。地域の方となかなか顔を合わせることができないので、このような機会を設けてくれてありがとうございました。
- ☆災害は自助すべきことだと考えを改められた。
- ☆足の不自由な母の避難をどうしたらいいのか考える機会になりました。



友寄第一団地自治会の取り組み

平成31年2月8日（金）友寄第一団地自治会防災講習会を開催しました。

友寄第一団地ミニデイ参加者・本会職員の21名で参加し、車中にて、防災講話を行いながら防災研修センターに向かいました。防災研修センターでは、本会職員より友寄第一団地自治会の年齢別人口・高齢化率・障害者数・要援護者数等の現況報告や、防災マップを活用し、ミニ講話を行いました。後半は防災研修センターの職員を講師に簡易地震体験・初期消火体験・水害時脱出体験等の体験型学習を行いました。



参加者の声

- ☆第一団地にこんなに要援護者世帯がいるとは思わなかった。
- ☆日頃からの防災意識や備えの大切さを学んだ。定期的に講習会を開催してほしい。



防災講習会を通して、自助・共助・公助や日頃の備えの大切さを学び、参加者一人ひとりの防災意識の高揚につながることができました。

3年間の学習成果を地域の皆さんへ

平成31年1月9日（水）、南部工業高等学校（宮城哲夫校長）機械科の生徒から、富盛地区へ生徒らが製作したレジャーテーブル2台が寄贈されました。

このレジャーテーブルは、同校の生徒9名が課題研究として「地域の方々へ貢献するためのものづくり」をテーマに製作したもので、今回、同校の所在地でモデル地区の指定を受けている富盛地区へ寄贈されることが決まりました。



野原区長から、「生徒の皆さんの気持ちがとても嬉しい。あったかい気持ちになった。これからは地域貢献の心を持って活動してほしい」と挨拶がありました。

作品を製作した生徒からは、「地域の方々に喜んでもらえて嬉しい。卒業後も、協力できることはしていきたい」との感想がありました。

生徒の作品は、富盛農村公園と八重瀬岳ハンタ公園に設置されます。

大阪府豊中市に行ってきました☆

平成31年1月12日（土）に行われた、「第12回全国校区・小地域福祉活動サミット in 豊中」にモデル地区支え合い委員、本会職員、町地域包括支援センター職員の12名が参加しました。

大阪府豊中市社協では4本柱「①一人も取りこぼさない②排除から包摂へ③支えられていた人から支え手へ④すべての人に居場所と役割を」を掲げ地域福祉活動に取り組んでいます。

また、シンポジウムの後には、4本柱に沿った具体的な取り組みとして「定年後の男性の居場所づくり」や「民生委員の一人も取りこぼさない・担い手づくり」「人口減少・高齢化を超えた魅力ある地域づくり」など10分科会に分かれ、それぞれ実際に活動されている住民やボランティア、民生委員等の声や活動内容等を学ぶことができました。



参加者の声

☆大きな災害の後、府もそうだけど豊中市全体が「ボランティア」の意識も高く、他人のことも自分のことのように活動しているのはすごい！と思った。「自分が持っているスキルや趣味」など、少しずつ字内でも発掘してもらえるイベントやボランティアグループを考えてみたいと思った。

☆コーディネーターの勝部さんがすばらしかったです。元氣とパワーがあり、少しでも見習いたいです。すべての人に居場所と役割を与えて一人も取りこぼさない地域に！



研修会・連絡会を開催

平成31年3月8日（金）、町社会福祉会館にて八重瀬町役場社会福祉課・本会の主催で、「地域力向上研修会並びに第1期モデル地区連絡会」を開催しました。

本研修会は、誰もが安心して暮らしていける地域共生社会に向けた体制づくりの継続・発展を目的とし、「平成30年度沖縄県災害時要援護者避難計画推進事業」と「平成30年度八重瀬町社協社会的孤立対策モデル事業」として実施しました。

研修会・連絡会にはモデル地区の支え合い委員、民生委員・児童委員、沖縄タイムス販売取次店、琉球新報販売取次店、役場職員、本会職員の78人が参加しました。

研修会では、一般社団法人 ADI 災害研究所理事長の伊永勉（これながつとむ）氏が、「孤立しない・させない“地域力”～地域共助が災害時も生命を救う～」をテーマに講演しました。

災害に弱くなっていく日本の現状、避難する場合の留意点、要援護者台帳や見守りマップの活用事例、民生委員が実践している事例等の説明がありました。見守りマップ作成時は、通学路の状況を把握している中学生の視点も大事という説明には、参加者が驚かされました。



参加者の声



- ☆すごく分かりやすく、今後の活動や話し合いの参考になりました。
- ☆地域のつながりが大事という事改めて感じました。
- ☆地域の努力、仲間作りがいざという時に大事。

研修会を通して、日頃から防災に関心を持つことや近隣住民との関係づくりが、災害時に人的被害を軽減する事につながると学びました。

連絡会ではモデル地区の支え合い委員を小学校区に分け、情報交換会（グループワーク）を行いました。

各モデル地区の現状と課題、今後の取り組み内容を各自でふせん紙に書き意見を交わしました。その後、グループで話し合った内容を全体でも共有しました。

現状では、地域相談窓口や活動の取り組み内容が挙がりました。課題では、「相談者が来ない」「窓口の周知不足」「支え合い委員同士の協力体制と共通理解」等が挙がりました。今後の取り組みでは、「地域見守り隊を結成したい」「顔の見える関係づくり」「見守りマップの作成」等が挙がりました。

今回の情報交換会をふまえて、

**2019年度もモデル地区が
活動を継続できるように推進します。**

